

---

# 真剣で私に恋しなさい!世界...

嘘月

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

真剣で私に恋しなさい！世界：

### 【Nコード】

N7059Y

### 【作者名】

嘘月

### 【あらすじ】

平和？な風間ファミリーに新たな仲間！！？が入る……のか？

## まだまだ（前書き）

川神市に毎年恒例の「例の祭り」が始まる時期がやって来ました

## まだまだ

ここは、日本国、神奈川県、神川市のある神社……の入り口

「やっぱり帰らない？秘密基地で遊びましょうよ」

川神一子（通称：ワンコ）が直江大和の腰にしがみつきながら駄々をこねていた。

「しつこいぞワンコ、何がそんなに嫌なんだ？」

ワンコが、川神百代（大和限定：姉さん・ワンコ限定：お姉様）から大和の腰から引き剥がされると子犬が、首根っこを持たれた様な格好になりながら宙ぶらりん状態で、涙を浮かばせながら呟いた。

「うう……分かってるくせにお姉様のイジワル」

「じゃあキャップ達も待つてるだろうしそろそろ行こうか姉さん」

大和がわざと聞こえてないふりをして百代に話しかけると、ワンコは必死に逃げようとするが首根っこを捕まえている百代の手が離れずズルズル引きずられながらワンコの遠吠えのような叫びが虚しく聞こえてくるのだった

ちょうど大和達が、祭りに向かった直後怪しい人影が忍び寄ってきていたのだった。

まだまだ（後書き）

感想が頂ければ更新します

## そろそろ（前書き）

短いですがよろしく（＾＾）今回も感想が来しだい更新します

そろそろ

ワシコがちょうど駄々をこねていたその頃……

「な…な…ん何なんだこれはー!!!?」

ちよつと面白い事になっていた。

「あわわわ…キャップさんあそこ…いやこら辺の出店いやこらの祭りなんか変じゃないですか？」

クリス（クリスティアーネ・フリードリヒ：ワシコ限定・クリ）と由紀江（黛由紀江・通称：まゆっち）が、顔を赤面にさせながらキャップ達を見ていた

「…この祭りはね、ちよつと変わってるけど楽しいよ」

キャップの代わりに京（椎名京）が顔色全く変えず淡々と話した

「し…しかしだなやはりこら辺の出店に並んで…!!!?」

クリスが喋っている最中に京が出店に並んでいたナニを口に突っ込んで黙らした

「ううん!!ううん!!!?」

最初は、暴れていたが味がよかつたらしく最後には、普通に食べていた

そろそろ（後書き）

ご意見・ご感想とじどしお待ちいたします

ちょっと(前書き)

更新遅れてすいません  
感想をいただきしだいまた更新します

ちよつと

それぞれ2つのグループが面白くなってるなか暑苦しい奴のいるグループは、というと……

「おい、モロ（師岡 卓也・通称：モロ）あと何を運ぶんだ？」

暑苦しい日に暑苦しい奴が神輿に使う材木を運んでいた。

「材木は、それで最後だよ。あとは、見せ物用のアレと小道具を運べば終わりだよ」

「よつしゃあならあと人踏張りだな」

「でもガクト（島津岳人・通称：ガクト）なんで、皆で、運ぶ筈だったのなんで、一人で運ぶなんて言ったの？」

ガクトは、顔だけ横に向けてきた

「そりゃあこおして一人で黙々と運んでいれば……格好いいじゃねーか」

「はは…は」

モロは、苦笑いをするのだった

「うわ」

その直後、モロの背中に何か当たっていった

「その人捕まえてくれー」

モロに当たっていった人が通りすぎるとほぼ同時に後ろから中年男性が汗をかきながら必死に走ってきた

「ス、ス、ス、スリだ財布を盗られた捕まえてくれ」

「モロまだ神輿に使う材木は、残ってたよな。」

「予備は、一応あるけど……ってまさかガクト!?!」

モロがビックリした原因は、材木を槍投げの様に片手で掴んで今にも投げようとしていた。

「ぶった押せ俺様ミサイル」

ガクトは、全力で材木を窃盗犯に投げつけた

いくら窃盗犯でもあの神輿に使う材木が当たればひとたまりもないだろうとモロが思った時には、窃盗犯の目の前まで材木が迫っていた。

窃盗犯は、か〇はめ破を撃つように手首を合わせ手を広げて材木が、ちょうど手のひらに入った瞬間、手をねじりそのまま下から打ち上げるようにして掌底を決めた。

材木は、半分粉々になりカランカランと地面に落ちた所でガクト達は、ハッと現実に引き戻された。

## ちょっと(後書き)

次回からちょこちょこ戦闘シーンが入ります

ご意見・感想どしどしお待ちいたします。

やる？(前書き)

更新遅れてすみません

Thank you 2000 アクセス

やる？

その跡、窃盗犯は、すぐに駆け出しガクト達も追い掛けた

「はあ、はあガクト、僕もう無理だよ先に行つてて皆に連絡しとくから」

「わかつた連絡任したぞ」

モロは、やはり体力が余りなくあつという間にガクトから距離が離れていった

(しかしあいつかなり体力あるなさつきも余裕で材木破壊したしやつぱり経験者か?)

ふとガクトが考えてすぐ窃盗犯は、走る速度を上げた

「チツまちやがれ」

ガクトも走る速度を上げたが何故かどんどん距離が離れていった。

やる？（後書き）

ご意見・ご感想とじしお待ちいたします

でも（前書き）

遅れてすみません

でも

ガクトが窃盗犯を追いかけている頃、他のメンバーは、集合しておりモロの連絡を受けて窃盗犯を探していた。

「ワンコ匂いとかで探せないのか？」

「流石に無理よ〜あつ、でもガクトの匂いならわかるかも」

メンバー別れており「ワンコ・クリス」「大和・百代・京」「キャップ・まゆっち」で窃盗犯を探していた

「そうなのかならいくぞワンコ!!」

「わかってるわよ」

大和夫妻……百代ペア

「大和〜大和〜」

「京そんなにくっつくな歩きずらいだろ」

「そうか大和、歩きずらいか」

「うわ、姉さんもくっつくな」

百代も悪のりで大和にくっついてきた

「窃盗犯捕まえて皆で祭りに行くんだから速く見つけないと」

大和が強引に逃げるように二人を外した

「わかっているさ弟よ……川神流「千里眼」」

百代は、塀の上に登って千里眼で周囲を見渡すとニヤツと笑って大和達を見て

「見つけたこいつは、面白くなって来たぞ」

百代は、そのまま塀の上を伝っていき大和と京は、後ろからついていった。

キャップ・まゆっちペア

「どうするんだ〜キャップ」

まゆっち……松風がキャップに少し不安そうに聞くとキャップは、道端に落ちている木の棒を拾ってくると棒をまゆっちと松風に向けてニヤツと笑つと

「俺は、運いいんだぜ!!」

そう言うと同時に拾った棒を宙に投げるとクルクルと棒が回りカランカランとある道の方向をさした

「こっちだぜ行くぞまゆっちに松風」

「松風……こんなので大丈夫何でしょうか？」

「どつたるつな」

でも（後書き）

ご意見・ご感想とじしお待ちいたします

真剣で私に恋しなさい！ 世界…そりゃないぜ（前書き）

明けましておめでとう

今年もよろしくお願ひします

ご意見・ご感想どしどしお待ちいたします

真剣で私に恋しなさい！ 世界…そりゃないぜ

窃盗犯……

（何なんだこの街は！！突然、木材投げてくる奴は、いるしやたらしつこいし……ちつまたきやがった）

窃盗犯の目の前には、バンドナを巻いてる男と黒髪にちょっと緑色が混じった女が立っていた

（雰囲気から一般人じゃないな……だが武器何かは、持っていないならいける）

キャップ&まゆっち……

「あわわわ本当にこんな棒切れで当たっちゃいました」

「本つつ当に、世の中何あるか分かんねーな」

「よつつしゃー！！俺の一番早く見つけたぜ！！」

まゆっち達は、驚いていたがキャップは一番早く見つけたのが嬉しいようではしゃいでいた

「やい、盗人野郎黙ってお縄を頂戴しやがれ」

「……………」

窃盗犯は、無言を決め込んでいて代わりに片手を上げて「さっさとかかってこい」と挑発をするように手招きした

「この野郎!！」

キャップは、ことごとく挑発に乗り右ストレートを放つが、窃盗犯の左手で流されて懐に入れそのまま左肘をみぞうちに入れ右肩をぶつけて左裏拳を顔をぶつけそのまま背負い投げそれがほんの一瞬だった

「ぐはあ!！」

キャップは、そのまま扉にぶつかり身体中激痛が走り意識が朦朧としていた

「キャップさん!！」

「なんなんだよあれは速すぎるぜ!!!?」

まゆつちと松風が駆け寄ってる隙に抜けようとしたときに窃盗犯に向かって鋭い突きの攻撃が窃盗犯の肩を掠めたが刃は、服を破いただけで済んだ

我が名は、クリステイアーネ・フリードリヒ貴様の悪事を我が剣で、成敗してくれる

クリスは、レイピアを胸かがげ宣言し、すぐに構えた

窃盗犯……

（武器か……確かあれば、レイピアとかゆう突き技の得意な武器じゃなかったっけ？だがこの服の破けかたから見て精巧に作ってあるレプリカか……これ以上やっても利益はないな）

窃盗犯は、クリスめがけて走って来るがクリスは、冷静に正確にレイピアで突いて来るが窃盗犯は、バク転しながら後退するし後ろから凄いいきが近づいているのも、わかった

（これ以上増えても面倒なだけだな……）

窃盗犯は、構えを低くして左手の甲を頭まで上げ右手を左手を右脇らへんまで引いたいわゆる型をとった

「全力でくるのだならば私も全力の一撃で迎えよう！」

窃盗犯の体は、黒い服と黒いマントで覆っており顔も例外でもなく黒い布で覆い隠していたのだがクリスは、窃盗犯の黒い布の隙間から見えた尋常ではない目を見て気がついたようにレイピアを最初の一撃のように胸のあたりに掲げるが雰囲気は今までとは、全く違った

真剣で私に恋しなさい！ 世界…そりゃないぜ（後書き）

ご意見・ご感想どしどしお待ちしております。

次回の更新は、来週です

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7059y/>

---

真剣で私に恋しなさい!世界...

2012年1月2日11時46分発行